



Title	日越両言語における「無」ではじまる語の対照研究 : 特殊な意味のある語を中心に
Author(s)	チャン, クォック ヒエップ
Citation	間谷論集. 2024, 18, p. 81-104
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/95440
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

日越両言語における「無」ではじまる語の対照研究

——特殊な意味のある語を中心に——

チャン クオック ヒエップ

〈キーワード〉「無」 存在の否定 特殊な意味 言語借用

1. はじめに

20 世紀はじめまで漢字文化圏に属していたベトナム語は、紀元前から多くの語を古代中国語から借用した。その結果、現代ベトナム語においては、漢字を用いないものの、日本語と同じく漢語由来語（漢越語とも）が多い（富田 1988 : 782）。中でも、「無」- *VÔ* [無] ではじまる漢語が多く存在している。日越両言語では、「無」は後ろの要素が示している事物・物事・概念を否定し、「存在性の否定」が主な意味特徴だと指摘されている（相原 1986、久保 2016、Phan Ngoc 2002、Đỗ Phương Lâm 2003 等）。この意味は（1）の日越共通漢語¹で多く確認されている。

- (1) a. 無罪：罪がない VÔ TỘI [無罪²] : không có tội (罪がない)
 b. 無学：学識がない VÔ HỌC [無學] : không có học thức (教養がない)
 c. 無形：形がない VÔ HÌNH [無形] : không có hình dáng cụ thể
 (具体的な形がない)

しかし、両言語において、一部の語で「存在性の否定」という典型的な意味以外に、特別な意味も確認されている。この特殊な意味は、「無」と結合する要素の価値と意味合いによって発生している。

- (2) a. 無価値 = 「無」 + 「価値」 = 価値がない。
 VÔ GIÁ TRỊ = VÔ + GIÁ TRỊ = không có giá trị. (価値がない)

b. 無価＝「無」＋「価」（「価値」の略）＝価値が測られないほど貴重。

VÔ GIÁ = VÔ + GIÁ (GIÁ TRỊ) = rất quý, rất có giá trị.

(とても貴重な、とても価値がある)

(2)「無価値」および VÔ GIÁ TRỊ〔無価値〕が文字通り「価値がない」を意味するのに対して、「無価」および VÔ GIÁ〔無價〕は日越両言語共に「極めて貴重なさま」を意味する。この事例からみれば、「無価」は、両言語とも「多い」と「良い」の意味を持つため、「無」は「～がない」という意味だけで説明できない。語構成の要素は同じだが、日本語の「無価」と「無価値」、ベトナム語の VÔ GIÁ と VÔ GIÁ TRỊ は意味が異なっている。

「無価」のような結合語では接辞と語基の本来の意味から語義全体の意味を判断できなくなり、意味の特殊化という現象が見られる。このように、日本語とベトナム語で確認される「無価」の意味は特殊な意味をもつ。日本語とベトナム語は共通漢語だけでなく、独自の漢語でも特殊な意味が確認され、その事情も異なっている。その独自性は、両言語における「無」が借用された後、独特の使用過程を経て語義が発展してきた結果ではないだろうか。本稿は、日越両言語の共通二字漢語に限らず、両言語における「無」ではじまる語の全体を考察し、典型的な意味と特殊な意味それぞれの事情を対照し、日越両言語の共通点・相違点とその原因を見出すことを目的とする。

2. 先行研究

2-1. 「無」ではじまる語の特殊な意味について

これまで、日越両言語において、「無」は結合語の接頭辞として、典型的な意味について追及されていることが多かった。だが、「無」ではじまる語の特殊な意味は、管見の限りまだ十分に検討されていない。

王 (2006) は日本語における「無」ではじまる語の語義を研究するに当たり、「特殊化の現象」に注目している。具体的には、「無」ではじまる語には、接辞「無」と語基の本来の意味を足しても造語全体の意味にならない場合があると指摘している。王 (2006) によれば、「無口」は「口がない」の意味ではなく、「口数が少ない」という意味を表すように、意味が特殊化している。「無心」は「雑

念がない」から「遠慮なく金品をねだる」へ、「無邪気」は「悪気のない」から「単純な」または「思慮に欠ける」へ、意味が悪化している。「無闇」はさらに意味の特殊化が進んで意味全体が「いい加減に」を示しているという。このように、「無」ではじまる語の一部は「少ない」「良くない」意味を持っており、「無」が「存在性の否定」から「価値性の否定」を表すようになってしていると窺える。

ベトナム語では、VÔ〔無〕ではじまる語、特に混種語が、特殊な意味をもつことが注目されている。Nguyễn Đình Hòa (1997) は、VÔ〔無〕ではじまる語と英語対訳の対応を検討し、ベトナム語の VÔ〔無〕は意味的に、英語の否定的接辞の「UN-, IM-, -LESS」で対応されることが多く、マイナスの意味を示していると述べている。例を挙げると、VÔ DANH〔無名〕- UNKNOWN、VÔ LỄ〔無禮〕- IMPOLITE、VÔ GIA CƯ〔無家居〕- HOMELESS などである。だが、VÔ〔無〕は、ベトナム語のいくつかの自由語に付加され、慣用的な表現を生成するという。例えば、VÔ CHỪNG〈無・程〉- EXTREMELY〈限りが無い、際限がない〉、VÔ KÊ〈無・語る〉- INNUMERABLE〈数えきれないほど多い〉、VÔ KHỐI〈無・塊〉- PLENTY OF〈極めて多量ではかりきれない〉などが挙げられる。つまり、ベトナム語における VÔ〔無〕は、固有語と結合する際、それぞれの概念を否定せず、むしろ程度を強調し、結合要素の価値を肯定する。その結果、「甚だしい」、「多い」意味を発生することが多いと思われる。

このように、先行研究では、日本語、ベトナム語ともに、「無」ではじまる語に特殊な意味が発生していることが既に指摘されているが、その特殊な意味を明確にし、体系的に把握することができていないとは言えない。実は、「無」ではじまる二字漢語に注目すると、その典型的な意味は語義で確認されないケースが多い(チャン 2022)。特に、「無」ではじまる二字漢語には特殊な意味があり、「絶対ない」ではなく、むしろ「ある」の意を表せるようになっている。この特殊な意味は「無」ではじまる語の語義で確認され、量的価値「多い・少ない」、程度評価「甚だしい」、そして質的価値「良い・悪い」に分かれる。ここで、「無」ではじまる語の特殊な意味についてチャン(2022, 2023a, b)をまとめる。

チャン(2022)は日本語の「無」ではじまる二字漢語を対象に考察した結果、「無」は「ない」、いわゆる「存在性の否定」のみではなく、特殊な意味に発展し

ていると指摘している。具体的には、「無」ではじまる二字漢語では、(3a)では量的価値「多い」、(3b)では量的価値「少ない」を確認できる。

(3) a. 言葉の意味は無数にある。[?? 数がない] → [数が多い]

b. 子供は無力である。[?? 力がない] → [力が少ない]

(チャン 2022 : 185)

そして、「無」ではじまる二字漢語は、(4a)で程度評価《甚だしい》、(4b)で「良い」、(4c)で「良くない」という質的価値に発展する。

(4) a. 悪魔は無数に存在し、神々をも攻撃の対象とすると考えられていた。

b. 無欲、無私の性格は、無言にして、多くの人の尊敬を集め得た。

c. 世の中には恥知らずで、無法なことをする者がいるかもしれない。

(チャン 2022 : 182-196)

ベトナム語でも、日本語の二字漢語で見られる特殊な意味が確認される。(5a)では、VÔ SỐ [無数]が日本語と同じく、量的価値「多い」を示している。だが、ベトナム語では、量的価値のみを表す語よりも、質的価値を伴う漢越語が多い。以下の(5b) VÔ DUYÊN [無縁]では「下品」を意味するように、「趣が足りない」と「良くない」評価を示している。(5c)では、VÔ GIÁ [無價]が物質的価値よりも精神的価値に言及し、「お金ではかり切れないほどの貴重なさま」を示し、「良い」と評価されている。

(5) a. Dải Ngân Hà được chứng minh chỉ là một khối vô số các ngôi sao.

帯 銀河 PASS 証明する 単に COP 一塊 [無数] 各 星

(天の川は無数の星の塊であることが示された。)

b. Chưa nói đã cười là người vô duyên.

まだ 言う ANT 笑う COP 人 [無縁]

(口を開けると、すぐに笑ってしまう人は下品だ。)

c. Tài liệu lịch sử này vô giá.

資料 歴史 この～ [無價]

(この歴史的文書は非常に貴重だ。)

以上の事例から見れば、日本語の「無」ではじまる二字漢語、ベトナム語の VÔ [無]ではじまる二字漢語の一部で確認される特殊な意味、つまり量的価値

や質的価値は、共通点もあるが、完全に一致しているわけではない。本稿は、日本語、ベトナム語における「無」ではじまる二字漢語に限らず、「無」が否定的な接頭辞として結合を形成する際、その特殊な意味がどのような有様を示しているかを明確にすることを第一目的とする。

2-2. 「無」ではじまる二字漢語のグループ別にみる特殊な意味

チャン (2023b) によると、「無」ではじまる語の特殊な意味の発生には、語基の意味内容と意味合いが密接に関係している。このことからチャン (2023b) は、「無」の後ろにある結合相手の意味内容に基づいて分類し、「実世界の概念」を表す語を A、「実世界と心的世界の両方に関係を持つ概念」を表す語を B、「心的世界の概念」を表す語を C とした。また、程度評価、質的価値を明確にするために、語基の意味合いが良いか悪いかにも注目し、各グループをさらに 2 グループに分類した。その結果、「無」ではじまる語を 6 つのグループ (A1、A2、B1、B2、C1、C2) に分類した。以下の (6)、(7)、(8) は A1 と A2、B1 と B2、C1 と C2 に属する日越共通漢語の代表例である。

- (6) a. A1 グループ：無機 -VÔ CƠ、無定 -VÔ ĐỊNH、無形 -VÔ HÌNH、無声 -VÔ THANH、無条件 -VÔ ĐIỀU KIỆN、無政府 -VÔ CHÍNH PHỦ など。
- b. A2 グループ：無主 -VÔ CHỦ、無拠 -VÔ CỐ、無効 -VÔ HIỆU、無価値 -VÔ GIÁ TRỊ、無原則 -VÔ NGUYÊN TẮC など。
- (7) a. B1 グループ：無辺 -VÔ BIÊN、無窮 -VÔ CÙNG、無極 -VÔ CỰC、無限 -VÔ HẠN、無量 -VÔ LƯỢNG、無数 -VÔ SỐ、無期限 -VÔ KÌ HẠN など。
- b. B2 グループ：無敵 -VÔ ĐỊCH、無双 -VÔ SONG、無二 -VÔ NHỊ など。
- (8) a. C1 グループ：無名 -VÔ DANH、無用 -VÔ DỤNG、無縁 -VÔ DUYÊN、無学 -VÔ HỌC、無頼 -VÔ LẠI、無礼 -VÔ LỄ、無心 -VÔ TÂM、無情 -VÔ TÌNH、無教育 -VÔ GIÁO DỤC、無責任 -VÔ TRÁCH NHIỆM など。
- b. C2 グループ：無害 -VÔ HẠI、無私 -VÔ TƯ、無畏 -VÔ ÚY など。

これらの例から、「無」ではじまる語の意味は、存在性の否定、限界の否定、価値の否定があるかどうかに基づいて区別できる。チャン (2023a) はそれぞれを、[Non-Existent]、[Boundless]、[Negative] の 3 つ素性の有無で表し、「無」では

じまる二字漢語を表 1 のように分類した。

表 1 「無」ではじまる二字漢語の各グループ

グループ	[Non-Existent]	[Boundless]	[Negative]	量的価値	質的価値
A1	[+Non-Existent]	[-Boundless]	[-Negative]	∅	∅
A2	[+Non-Existent]	[-Boundless]	[+Negative]	∅	良くない
B1	[-Non-Existent]	[+Boundless]	[-Negative(∅)]	多い	甚だしい
B2	[-Non-Existent]	[+Boundless]	[-Negative(P)]	少ない	良い
C1	[-Non-Existent]	[-Boundless]	[+Negative]	少ない	良くない
C2	[-Non-Existent]	[-Boundless]	[-Negative]	少ない	悪くない

(チャン 2023a : 214 に基づいて加筆修正)

表 1 で示されるように、「無」ではじまる二字漢語を分類することによって、特殊な意味の出現範囲を確認できる。量的価値に関して、A グループでは典型的な意味「ない」を持つため、量的価値がない。B グループの B1 では、「多い」という特殊な意味があるが、質的価値「甚だしい」から発生した結果だと思われる。B2 では、量を数値化すると「1」になり、つまり「少ない」を意味している。C グループでは、語義は「少ない」価値を示す。質的価値に関して、A1 には特別な意味がない。A2 では、「人間にとって望ましい」から、「良くない」意味合いに発展している。B グループでは、「甚だしい」の特殊な意味として、場合によって「良い」にも「良くない」にもなりうるが、B2 では「良い」になる傾向がある。C グループについて、C1 では、語基が良い意味合いを持っているため、量的価値が「少なければ少ないほど」語義が「良くない」と評価される。一方で、C2 では X の意味合いが良くないため、「少ない方が良い」と思われるが、語義は「悪くない」を表す。このように、日越両言語の「無」ではじまる語全体をグループ別にみると、それぞれの言語における「無」の特殊な意味の実態を明確にすることができると考えられる。

3. 調査

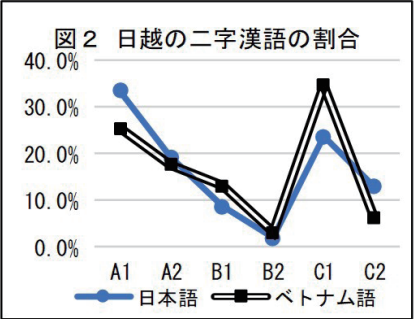
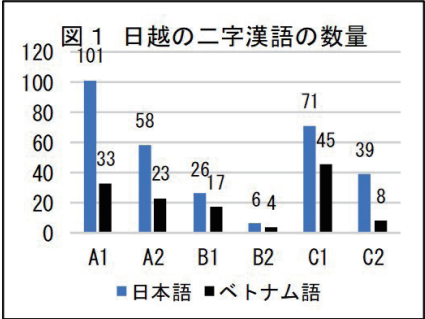
3-1 調査概略

本稿では、日越両言語の共通漢語で見られる特殊な意味が、それぞれの言語の二字漢語だけでなく三字漢語、混種語も含む、「無」ではじまる語全体でどのような有様を示しているかを把握する。まずは、結合語が漢語になる場合と、混種語になる場合にわけ、それぞれのケースで特殊な意味を考察する。そして、日本語、ベトナム語の「無」ではじまる語について、グループ別で語数と割合をデータ化して、同じ図内で対照する。最後に、語数と割合の差に基づいて、「無」ではじまる語の意味、特に特殊な意味について初歩的考察を行う。

研究対象の語は、現行の辞典とインターネットで公開されている辞典から集めた。日本語は、『日本国語大辞典』など8冊の辞典³に収録されている語とインターネットから新しい語を収集した。具体的には、google 検索サイトで「無」、「二字漢語」、「三字漢語」、「混種語」「新語」というキーワードを検索し、有効なウェブサイト（漢字ペディア、漢字リーダー、ウィクショナリーなど）から語を集めた。最後、実例があるかどうか再度グーグルサーチで確認する。その結果本稿は、二字漢語 305 語、三字漢語 181 語、混種語（語基が固有語）31 語、混種語（語基が外来語）22 語を日本語の対象としている。ベトナム語に対しては、『ベトナム語辞典』（2020）をはじめ7冊の辞典⁴から VÔ〔無〕ではじまる語を集め、インターネットで新しい語を検索した。そして、Victlex のコーパスで確定した語の事例と新しい語を確認した。最終的に本稿は、二字漢語 130 語、三字漢語 32 語、混種語（「無」と固有語からなる語のみ）18 語をベトナム語の対象としている。

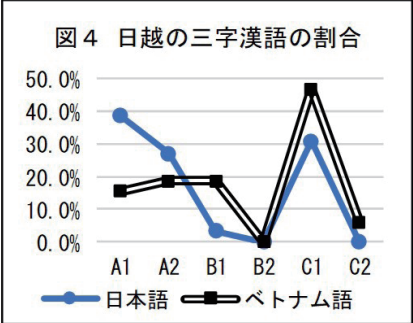
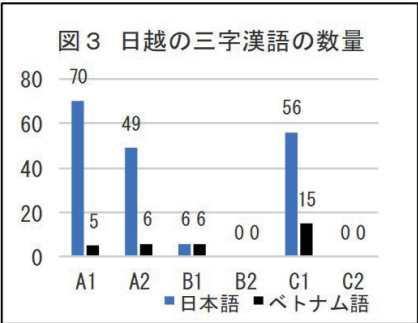
3-2 調査結果

図1から、日本語の二字漢語は305語あり、ベトナム語の130語と比べて語数が非常に多い。図2から、両言語のグループ別の割合が相当類似していることがわかる。



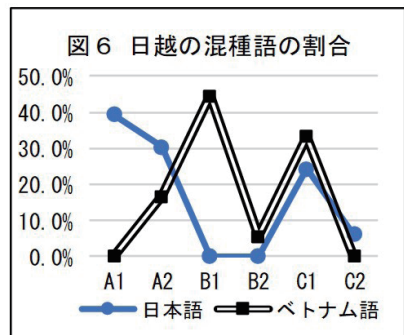
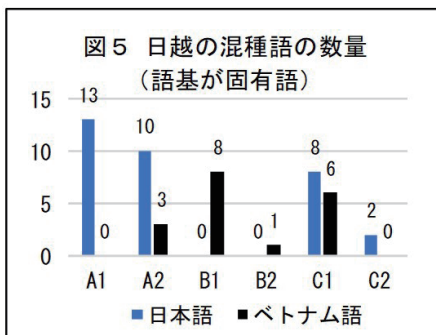
これは、日越両言語の大部分が二字漢語であり、共通漢語が多いため、共通する意味が多いことに起因すると言える。相違点としては、図 2 が示しているように、ベトナム語の割合が B1 と C1 で日本語より高い。言い換えると、ベトナム語では、VÔ [無] が「甚だしい」そして「多い」、特に「少ない」「悪い」の意味合いを持っていることが日本語より顕著である。それに対して、日本語の A1 と C2 の割合がベトナム語より高い。この点から、日本語の「無」が典型的な意味を維持していることが多いと思われる。さらに、日本語において、C2 の「悪くない」の意味を持つ「無」が、語基の意味合いに関係なく結合できると考えられる。

次に、三字漢語における特殊な意味を考察すると、二字漢語とかなり異なっている。まず、日本語と比べて、ベトナム語の三字漢越語の数は少ない。



共通点として、「無」ではじまる語の語義のほとんどが「存在性の否定」を示す。三字漢語は、後ろの二字漢語の意味が明確で、「無」が典型的な意味しか表せないからだろう。しかし、特殊な意味では、日越の相違点が顕著になる。日本語では、二字漢語同様、A1 の割合が最も高く、C1 が2 番目に高い。だが、A1 の漢語は「ゼロ」を示すが、C1 は心的世界の概念を表すため、意味はゼロに近い「少ない」か「足りない」、そして評価「良くない」が確認できるようになる。ベトナム語では、割合から見ると、C1 の割合が最も高い。日本語の C1 も同じ傾向であり、日越に共通する語が集中している。もう一つの相違点として、日本語は B グループの漢語が少ないが、ベトナム語では B の割合が維持され、潜在的な「甚だしい」を示している。また、ベトナム語の A は VÔ [無] の典型的な意味を維持しているが、日本語より割合が低い。

最後に、ベトナム語では VÔ [無] と外来語からなる語が確認されないため、本稿は「無」と固有語からなる混種語のみを考察する。ここでも、日本語の語数(33 語)がベトナム語(18 語)より多いが、二字漢語や三字漢語ほど差は大きくない。図5 から見ると、日本語では、タイプ B が確認されなかった。そのため、混種語であっても、日本語の「無」は A1 と A2 が示しているように、主に「存在性の否定」を示す。この意味は外来語と結合する語でも確認されている。しかし、C1 と C2 では「少ない」が確認された。「良くない」は、A2 と C1 で確認され、語基は「あったほうがよい」という潜在的な意味合いをもつ。そのため、混種語では「良くない、悪い」意味を示していると思われる。



一方、ベトナム語では、VÔ〔無〕が固有語と結合して混種語を作れる。だが、固有語と言っても、実は漢語由来語もあるため、厳密な混種語は僅かな数に過ぎない。しかし、特殊な意味は豊富である。B1の「甚だしい」そして「多い」は混種語全体の半分近くが示している。他に、C1とA2もあるが、「良くない」を示している。日本語と異なり、ベトナム語のVÔ〔無〕は外来語と結合しない。つまり、両言語の外来語に対応する機能と役割が異なると言える。

以上より、ベトナム語の「無」ではじまる二字漢語、三字漢語、混種語の語数と特殊な意味の割合から、ベトナム語は「甚だしい」と「多い」が多い。一方、日本語は「無」が典型的な意味を維持していることが多いことがわかってきた。中でも、「少ない」、「良くない」、つまり「無」自体の意味特徴がよく見られるが、外来語と三字漢語をみれば、「無」の基本的な意味が維持されていると思われる。

4. 総合考察

本稿の観点として、「無」は古代中国語から日本語・ベトナム語の両言語に借用されたため、「無」ではじまる語で確認される特殊な意味には共通点がある。一方、「無」は両言語に借用された後、使用過程における受容・発展事情が異なっている点で相違点がある。その相違点は「無」が日本語、ベトナム語に借用された後、自国語の影響を受けるからであろう。そのため本稿は、次の3点で「無」の使用と両言語で使われる「無」の特殊な意味について考察する。

4-1. 独自語とその対訳から見る

日本語とベトナム語には共通漢語以外に、独自語が多く存在している。本稿はそれぞれの言語で独自に作られた語を相手の言語に翻訳することで、「無」がそれぞれの言語でどの意味を表すかを解明していく。

4-1-1. 日本語の独自語

具体的な概念を表す日本語の独自語は多い。ただし、独自語は、単独で翻訳しにくいいため、修飾部分としてそれらを含む複合語をベトナム語に訳した。具体的

には、日本語の語を意味のある要素に分け、それぞれの要素に相当するベトナム語の要素で置き換える。その後、翻訳された要素をベトナム語の修飾関係に従って組み合わせることで、ベトナム語での対訳を得た。その結果、ベトナム語の対訳で、固有の否定辞 *KHÔNG* (ない) が (9,10) で多く使用された。特に、(9) では、三字漢語の独自語はベトナムの対訳で一語になっておらず、品詞性も確保できない。この点で、日本語における「無」は簡潔なイメージを示し、語の生産性が高い。

- (9) 無医村: *làng không có bác sĩ* (医者が居ない村)

無煙炭: *than không khói* (煙のない炭)

無鉛ガソリン: *xăng không chì* (鉛のないガソリン)

無給休暇: *nghi làm không lương* (給料がないで休むこと)

無血革命: *cách mạng không đổ máu* (血を流さない革命)

- (10) 無関心: *không quan tâm* (感心しない)

無干渉: *không can thiệp* (干渉しない)

無資格: *không có tư cách* (資格がない)

無所得: *không có thu nhập* (所得がない)

一方、(11,12,13) の心的概念を表す独自語は、異なる事情を提示している。

- (11) は語基がプラスの意味合いを持つため、ベトナム語の対訳は、「良くない」と評価される一語で対応する。

- (11) 無骨: *thô bạo* [粗暴], *lỗ mãng* [魯莽], *dung tục* [庸俗]

無粹: *cục mịch* (愚鈍な、粗野で教養がない)

無視: *không thèm đếm xia* (目を配らない), *lờ đi* (目を逸らす)

無鉄砲: *qua quýt* (いい加減な), *cẩu thả* [苟且], *bốc đồng* (気乗りの)

無神経: *trơ lì* (鈍感), *vô cảm* [無感] (思いやりがない)

- (12) 無難: *không sao* (大丈夫), *an toàn* [安全], *vô sự* [無事]

無苦: *không khổ* (苦しみがないさま)

無欲: *không ham muốn* (欲がない)

- (13) 無駄: *vô ích* [無益], *lãng phí* [浪費]

無茶: *vô lý* [無理], *thái quá* [太過]

無慚 : *thê thảm* [凄惨], *tàn khốc* [残酷], *khốc liệt* [酷烈]

無念 : *hối tiếc* [悔惜]

(12) は語基がマイナスの意味を持っているが、語ではなく、解釈で訳される。しかし、同じくマイナスの意味合いを持つ (13) では、マイナスの語で訳されている。ここでは、「無」はマイナスの意味を示しているが、少数で「甚だしい」という特殊な意味も発生する。

4-1-2. ベトナム語から日本語へ

(14) のような科学的概念を指すベトナム語の独自語を日本語に翻訳すると、「ない」だけでなく、否定接頭辞「不・無・未・非」でも対応される。

(14) *VÔ BÀO* [無胞] : 《生》未生の、細胞が無形成の。細胞が形成しない。

VÔ NGHIỆM [無驗] : 《数》方程式で根が求められない。

VÔ ƯỚC [無約] : 《数》公約数がない、通約できない。

VÔ SINH [無生] : 《医》子供を生まない不妊症の。

このように、ベトナム語の *VÔ* [無] は、固有語より簡潔で、専門用語の命名に適している。これらは、ベトナム語固有の修飾構造と反対の構造（修飾語＋被修飾語）をもたらす (Cao Xuân Hạo 2017 : 251)。それにより語を個別化させ、多義性による曖昧さを避けられるため、ベトナム人には認知しやすい。

一方で、心的世界の概念を日本語に訳す際、(15) のように、ベトナム語の *VÔ* [無] は「マイナス」の意味を表す語に多い。

(15) *VÔ BỔ* [無補] : 益がない、無益の、役に立たない、無用の。

VÔ HỒN [無魂] : 魂が抜けた、物を考える力を失った。

VÔ LIÊM SỈ [無廉恥] : 破廉恥な。

VÔ TÍCH SỰ [無積事] : 役立たずの、無用の。

一方、日本語と異なって、(16) では、程度評価「甚だしい」を示す。さらに、*VÔ VÀN* と *VÔ KHỎI* でも「多い」という特殊な意味が発生している。

(16) *VÔ ĐỘ* [無度] : 過度、節度をしらないさま。

VÔ HỒI [無廻] : 尽きることが無い、どこまでも広がる、限りがない。

VÔ NGÂN (無垠) : はるかに、大変な、度を越えた。

VÔ VẠN (無萬) : 量りきれない、量ることができないほど多い。

VÔ KHỎI (無塊) : いくらでもある。数えないきれないほど多数である。

翻訳語から見ると、日本語とベトナム語は共通点が多い。それは、「無」が専門用語の命名とマイナスの提示に適する点である。「無」は本来中国語で、文語的で改まった印象を与える。「無」は文章を簡潔化し、洗練する効果があるため、専門用語の造語に生産性をもっている(朴 2015 : 186)。一方、「無」は存在と非存在のみを表すのではなく、人間の期待に反する時にも使われる(チャン 2023b : 217)。そのため、「無」は「存在性の否定」を用い、「価値性の否定」を表せる。しかし、「無」は高度な否定性で、結合する相手の程度を強調する可能性を持っているため、「無」ではじまる語の「甚だしい」、そして「多い」という意味を表すことができる。日本語の独自語は、「甚だしい」という程度評価にとどまっているが、ベトナム語の独自語は「多い」が発生する点で日本語と異なっている。

4-2. 否定的な固有語と対照する

「無」は外部から借用した否定的な接頭辞であるが、「否定」を表す要素は、それぞれの言語でもすでに存在している。そのため、「無」の意味は固有語と競合し、それぞれの機能・意味を分担しなければならない。

4-2-1. 日本語の「無し」と「ない」

「存在性の否定」の和語接辞と言え、日本語の「無し」を言及しなければならない。「無し」は名詞の後ろに位置し、名詞の示すものが存在しないという意を添えている。(17) で示しているように、「無」は「無し」と言い換えられない。むしろ、(18) のように、「無」で言い換えられそうな場合であっても、細かな意味合いの相違が生じる。

(17) a. 種無しブドウ → (×) 無種ブドウ b. 父無し子 → (×) 無父子

c. 教師なし学習 → (×) 無教師学習 d. 文句なし → (×) 無文句

(18) a. 名無し : 名前がない 無名 : 名が知られない ⇔ 有名

b. 能無し : 役に立たず、取柄もない 無能 : 能力や才能がない ⇔ 有能

(18) では、「無し」は現物の存在のみを否定するが、「無」は抽象的な概念を否定することに用いられる。さらに、「無し」は砕けた意味合いを持っているのに対して、「無」はフォーマルな意味合いを持つ。

なお、日本語の否定を表す要素といえ、「ない」を言及しなければならない。本稿では、文の否定を表す「ない」ではなく、語彙に使われる「ない」に限定している。日本語の形容詞・形容動詞は、「ない」が語構成に含まれる。

(19) a. 否定の「ない」：素っ気ない、味気ない、意気地ない、限りない

b. 強調の「ない」：切ない、せわしない、いたいけない、はしたない

(19a) では「～がない」と説明されるように、「ない」は語基に否定の意を与える。一方で、(19b) の語義は「～がない」では説明できず、むしろ「甚だしい」の意を語基に与える。このように、二つの「ない」は意味・機能が全く違うが、形式が同じで混同しやすい。そのため、同音異義衝突が起こりやすく、強調の「ない」は否定の「ない」に飲み込まれていた。しかし、否定の「ない」と強調の「ない」は関連していると思われる。なぜかという、強調の「ない」は本来「それより上がない」ことを意味し、「非常に、極めて」の意に発展したからである。このように、語を構成する際、日本語の固有語「ない」でも「甚だしい」を示せるため、日本語では「無」を用いて「甚だしい」を表す必要がないと言える。ただし、「無駄」「無茶」の当て字、「無慚」「無念」の派生義では「甚だしい」を表し、それは日本語の強調の「ない」に影響され、「無」を用いたのではないだろうか。

4-2-2. ベトナム語の KHÔNG

ベトナム語の否定辞といえ、KHÔNG である。普段、KHÔNG は動詞・形容詞の前に置かれ、文の否定として機能する。だが、(20a) のように、存在性の否定を述べる際、KHÔNG は「ある、いる、存在する」の CÓ の前でのみ機能する。なお、(20b) では、語レベルの存在性の否定を示す際、KHÔNG が CÓ を伴わないで語を構成する場合もある。

(20) a. Cà phê *không có* đường. (コーヒーは砂糖の入っていない。)

コーヒー NEG ある 砂糖

b. Cà phê *không* đường. (ブラックコーヒー)

コーヒー NEG 砂糖

しかし、(21a) では、後ろの結合相手が TRÁCH NHIỆM (責任) であれば、KHÔNG は単独で語を構成できない。そのため、CÓ と一緒に文の否定として機能する。

(21) a. Anh ta *không có trách nhiệm*. (彼には責任がない?/ 責任感がない?)

彼 NEG ある 責任

b. Anh ta *vô trách nhiệm*. (彼は無責任だ。)

彼 無責任

それに対して、(21b) で、VÔ [無] は後ろの相手と直接結合し、一語として確立できる。また、(21a) のような多義性を払拭することができる。このように、存在性の否定を表す機能はともかく、KHÔNG CÓ は形式面で VÔ [無] のように簡潔な構成、意味面で機能性が足りない。そのため、VÔ [無] が命名に適する。

なお、KHÔNG [空] は VÔ [無] と同じく、漢語に由来した漢越要素の一つである。ベトナム語で漢越要素とした KHÔNG [空] は「そら」を意味し、KHÔNG KHÍ [空気]、KHÔNG TRUNG [空中]、KHÔNG QUÂN [空軍] といった漢越語を創り出した。その際、KHÔNG [空] に VÔ [無] のような特殊な意味は確認されない。ただし、KHÔNG TƯỞNG [空想] で確認されている「中身、内実がない」という意味は、KHÔNG [空] が単独で、ベトナム語の固有語、特に名詞・動詞の後に「空っぽ」「内実を伴わない」意を添える。

(22) a. Ăn *không* ngồi rồi. (食ってばかりすることなしに暮らす。)

食べる 「空」 座る 暇

b. Giá rẻ như cho *không*. (ただでもらうほど安い。)

値段 安い のように あげる 「空」

このように、ベトナム語における KHÔNG [空] は本来漢語からの借用だが、ベトナム語では、代表的な否定辞であり、固有語のように扱われている。KHÔNG [空] のもつ否定性は中庸的で、あらゆる場面、対象語を否定できる。一方、VÔ [無] の使用範囲は限定され、漢越語で「存在性の否定」を示すが、

KHÔNG [空] が表現できない特殊な意味「甚だしい」を表せるようになる。

4-3. 結合能力からみる

最後に、本稿は、日本語とベトナム語の「無」における、固有語や外来語との結合可能性について考察する。

4-3-1. 固有語と結合すること

両言語で、「無」は固有語と結合することができる。日本語は、「無届け、無考え」のように、「無」が「存在性の否定」を追加しているが、和語の語基が比喩的に理解されることが多く、人間の心的世界をよく表している。

(23) a. 無手：手段がない 無傷・無疵：失敗がない

b. 無口：口数が少ない 無闇：度を越えたさま。

(23b) では、混種語は「足りない」「良くない」を含意している。日本語に入った「無」は、日本語の固有語に新しい意味を求める力を持つ。そのため、和語の語基はメトニミー効果によって、抽象的な意味を表せるようになる。しかし、このような混種語は日本語に少ない。なぜなら、和語の語基が原義と大きく離れると、日本人が理解できなくなるからである。古語では「無潮（愛嬌がないこと）」「無山（鷹狩で、鳥を一羽も捕らないで帰ること）」「無物（模様のない着物）」などがあったが、意味が理解できなくなり、現在では使われなくなった。

一方、ベトナム語の VÔ [無] ではじまる混種語は、結合相手が固有要素か越化漢越要素かに分けられる。日本語と異なって、抽象的な概念を表すことがなく、主に程度が「甚だしい、高いさま」を表すことが多い。特に、結合する相手が「境界、限界」を表し、「無」と結合すると「甚だしい」が発生する。

表2 ベトナム語の「無」ではじまる混種語

混種語	相当する漢字 (固有語)	意 味
VÔ BỜ	無 (岸)	限りが無い、無限の。
VÔ BỜ BẾN	無 (岸+渚)	無辺。
VÔ CHỪNG	無 (程)	限りがない、際限がない。
VÔ KÊ	無 (語る)	多くていちいち上げることができない。
VÔ SỐ KÊ	無数 (語る)	数えきれないほど多い。
VÔ THIÊN LŨNG	無天 (数えられる)	《俗》数えきれないほどの、無数の。
VÔ TỘI VẠ	無罪 (禍)	あたり構わずの、ひどく。

VÔ [無] の使用範囲は KHÔNG [空] より狭いが、「甚だしい」「多い」といった特殊な意味を表せるため、その機能が更に拡大したのではないだろうか。

4-3-2. 外来語と結合することについて

「無」ではじまる混種語と言え、ば、「無」は固有語のほかに、外来語とも結合することが想定できる。日本語では、「無」が接頭辞として、後ろの語基を否定する意を表す。ここでは、「無」は固有語と同様、語基の外来語が示している対象の存在を否定し、主に専門用語として使われる。

(24) 無アクセント、無エコー (領域)、無βリポタンパク血症、無オルガズム症、無カタラーゼ症、無バイアス状態、無リスク金利など。

(25) a. 「ノン-」: ノンオイルフライヤー、ノンカフェイン、ノンキャリア、ノンフライ、ノン気、ノンかんすい、ノン渋滞、ノン缶コーヒーなど。

b. 「ノー-」: ノーガード、ノーカウント、ノーカット、ノーギャラ、ノーシード、ノースコア、ノー残業デー、ノー原稿発表、ノー上着など。

しかし、日本語は外来語だけでなく、(25) のように、否定辞「ノン-」「ノー-」も借用している。林 (2019) によると、「ノン-」は「存在性の否定」を中心に表すが、「ノー-」は「禁止・お断り」、更に「なくす」といった「周辺の意味」も派生している。外部から借り入れた「ノン-」は「無」と同じく、「存在性の否定」として機能するが、「ノー-」とともに、日本語に新鮮な感覚を与える。「無」、「ノン-」と「ノー-」から、日本語が外来語を積極的に借用したことがわ

かる。

一方ベトナム語は、「無」と外来語からなる結合語は一つも確認されない。その背景には、ベトナム語の外来語について特別な事情がある。

(26) a. フランス語由来語 : crème → cà rem → kem (アイス)

essence → ét-xăng → xăng (ガソリン)

b. ロシア語由来語 : Марксист (Marxist) → Mác-xít (マルキスト)

Совет (Soviet) → Xô Viết (ソビエト)

c. 英語由来語 : one two three → oản tù tì (じゃんけん、ポイ)

meeting → mít tinh (ミーティング)

(26) で見られるように、外来語はベトナム語に借用されると、まずベトナム語音に変換され多音節語になる。特に、古くから借用されているフランス語由来語は、現代ベトナム人は固有語のように認知している。しかし、外来語の意味は、ほとんど具体物を指し、抽象的な概念が少ない。「無」が抽象的な概念と結合する点からみれば、外来語は望ましい結合相手ではない。更に、(27) のように、ベトナム語は、新しい概念を直接借用するより、ベトナム語に訳すことのほうが多い。

(27) 「バイタルサイン」 : sinh hiệu [生号]

「リモートセンシング」 : viễn thám [遠探] (「遠隔探査」の略)

「スピードメーター」 : đồng hồ tốc độ [銅壺速度]

「デジタルテレビ放送」 : truyền hình kỹ thuật số [傳形技術數]

このように、外来語の要素は孤立語であるベトナム語の形態素と異なるため、結合しない。または、外来語が直接借用ではなく、翻訳借用されることから、「無」が外来語の語基と結合しにくいことが窺える。

5. 結び

日本語、ベトナム語における「無」について考察し、共通点と相違点を明らかにした。「無」は両言語で専門性のある用語と非難のニュアンスを表現する際によく使われる。それは、漢語に由来した「無」が語形成と文章の表現力で、固有語より優れているためであろう。ただし、「無」がそれぞれの言語で「ない」を

意味する要素と同義衝突の回避が起こったため、「無」の典型的な意味、特殊な意味の維持・発展で相違がみられる。日本語では、「存在性の否定」を典型的な意味とした「無」が新しい語を創ることに活用されている。だが、これにより「無価」が「代価がない、ただである」と説明されるようになり、特殊な意味は圧倒され、貧弱化している。一方で、ベトナム語では、VÔ〔無〕が典型的な意味を表す場合、KHÔNG で言い換えられ、機能範囲が縮小している。特殊な意味に関しては、VÔ〔無〕ではじまる語が「甚だしい」、「多い」を表せるようになり、強調語として使われる。このように、ベトナム語の「無」ではじまる語は日本語より語数が少ないが、特殊な意味の豊富さを有していることが説明できる。

本稿では、日越共通漢語だけでなく、両言語における独自語を考察することで、特殊な意味の事情に相違があることが明らかになってきた。その相違の原因には、言語内的要因と言語外的要因があると思われる。言語内的要因については、日本語とベトナム語の言語類型に注目する。日本語は膠着語で、「無」が接頭辞として、語基の出自を問わず無条件で相手と結合しやすいため語数が多い。一方ベトナム語は孤立語の一つで、「無」が、形態素のように音韻・意義について語構成上の制約を後ろの結合相手に求めるため、外来語と結合できない。それ故、「無」ではじまる語は語数と種類が同じではない。しかし、両言語の「無」の意味の相違は、言語接触と言語借用の観点にも注目する必要がある。言語借用とは、新しい文物を指す語が自国語に無いために、原語をそのまま借り入れることを動機としている。また、自国語には既にあるものの、高度な外国文化にあやかるために借用することもある。このように、「無」の借用は、古代中国からの文物・思想・概念ではなく、日越両言語固有の否定語では表現できなかった意味合い・語感の表現を担っている。特に、「無」は自国語に否定の有標化、洗練された響きをもたらす。そのため、現代でも、「無」は専門造語の形成と特殊な意味の表現に使われるのではないだろうか。しかし、借用された「無」が両言語中で長く使われると、自国語からの影響を受け変化する。その変化は外来語より大きいと言える。このように、「無」には意味の維持・衰退・発展が起こりうる。その結果、日本語の「無」は原義が維持され、ベトナム語の VÔ は特殊な意味を表すことが多くなった。

言語外的要因について、日本語とベトナム語は漢語に対する態度が異なる。漢字文化圏における言語交流は、東アジアで早くから行われていた。日本語は、6世紀から、漢字と共に漢語を能動的に受け入れたため、「無」が原義通りに保持されている。一方ベトナムは、紀元前から中国系の王朝の支配を受けたため、強引に漢語が輸入された。しかし、漢語は知識者のみに使われ、大部分の民衆は固有語を使用していた。そのため、ベトナム語は、漢語が固有語と激しく競合することになった。そこでは、固有語が優勢だったため、漢語は固有語が表せない意味を補うようになり、THU〔書〕が「本」から「手紙」を指すように、本来の意味と異なった意味で使われる。さらに、20世紀初め、フランス領植民地として、ベトナムでは漢字・漢文の排除運動が強まり、この100年間で漢越語と漢字との繋がりがなくなった。さらに1960年代から北ベトナムで行われた「ベトナム語の純粋性を守る」運動により、漢語をはじめ外来語は肅清され、多くは固有語に置換されたため、日本語と共通する「無頭、無恙」は現代の辞典にも確認できない。このように、日本語は借用元が漢語から欧米語へ転換したものの、昔から外来語を積極的に借用している。それに対して、ベトナム語は外来語より固有語を重視し、漢語でも独自の意味が発展した。このような文化背景と言語環境は両言語における「無」の意味の受容・発展・衰退にも影響しているのではないだろうか。

注

- 1 ベトナム語の漢越語が本来の漢字の表記を確認し、日本語の漢語の表記と同じなもの。
- 2 本稿では、ベトナム語の漢越語に対して、漢字表記は〔 〕で表記されるが、意味は（ ）で示される。また、混種語は〈無・ 〉で表示する。
- 3 『学研現代新国語辞典〔改訂第六版〕』（2017）、『明鏡国語辞典〔第三版〕』（2020）、『新辞林』（1999）、『広辞苑〔第七版〕』（2018）、『日本国語大辞典〔第二版〕』（2003）、『大辞林〔第四版〕』（2019）、『大辞泉第二版』（2012）、『新明解国語辞典〔第八版〕』（2020）。
- 4 *Hán Việt từ điển giản yếu* (Đào Duy Anh 1932), *Từ điển Hán Việt từ nguyên* (Bửu Kế 1968), *Việt Nam tự điển* (Lê Ngọc Trụ 1971), *Đại từ điển Tiếng Việt* (Nguyễn Như Ý 1999), *Từ điển Tiếng Việt* (Hoàng Phê 1988), *Từ điển Tiếng Việt (có chú chữ Hán cho từ ngữ Hán-Việt)* (Vietlex

2020).

【略号】ANT 既然の形式 COP コピュラ NEG 否定の形式 PASS 受身の形式

参考文献

- 相原林司 (1986) 「不ー 無ー 非ー 未ー」『日本語学』5 (3)、明治書院、pp.67-72
- 王淑琴 (2006) 「日本語における否定接頭辞『不-』『無-』『非-』の語形成：語基に課される意味的な制約」『東吳外語學報』23、pp.125-147
- 久保圭 (2016) 「日本語接辞にみられる否定の意味的多様性とその体系的分類」、京都大学大学院人間・環境研究科博士論文
- チャン クォック ヒエップ (2022) 「日本語における「無」の意味についての研究：「無」ではじまる二字漢語を中心に」(日本語日本文化研究第32号)、pp.182-196
- チャン クォックヒエップ (2023a) 「日本語における「無」ではじまる二字漢語の意味についての研究：「無」と結合する語基の意味を中心に」『第4回国際シンポジウム～日本語教育と日本研究～世界の潮流とベトナムの実践』ハノイ国家大学出版社、pp. 200-218
- チャン クォックヒエップ (2023b) 「日本語における「無」の意味についての再考：「無」ではじまる二字漢語とその反義関係に基づいて」(日本語日本文化研究第33号)、pp.84-98
- 富田健次 (1988) 『言語学大辞典第二巻』(亀井孝偏) 三省堂、pp.759-787
- 朴景淑 (2018) 「「無」の造語機能と意味機能：3字結合語を中心に」『名古屋大学人文学フォーラム』巻1、pp. 15-29
- 林慧君 (2019) 日本語における否定を表す外来語系の接頭辞的要素「ノン-」と「ノー-」『台灣日本語文學報』45、pp.118-142
- Cao Xuân Hạo (2017) *Tiếng Việt mấy vấn đề ngữ âm - ngữ pháp - ngữ nghĩa* (Tái bản lần thứ nhất), Nhà xuất bản Khoa học xã hội
- Đỗ Phương Lâm (2003) “*Vô, phi, bất trong tiếng Việt*”, *Ngôn ngữ & đời sống* số 12 (98), 5-8
- Nguyễn Văn Khang (2000) *Từ điển Nhật Việt*, Nhà xuất bản Thế giới
- Phan Ngọc (2000) *Mẹo giải nghĩa từ Hán Việt và chữa lỗi Chính tả*, Nhà xuất bản Thanh niên
- Nguyễn Đình Hòa (1997) *Vietnamese Tiếng Việt không son phấn*, John Benjamins Publishing Company

謝 辞

本稿は2023年度大阪大学言語社会学会研究発表会(2023年11月16日)での口頭発表に基づいて、加筆修正したものである。また、大阪大学人文学研究科外国学専攻(ベトナム語)の清水政明教授からの貴重なコメントを頂き、ここで感謝の気持ちを申し上げます。

チャン クォック ヒエップ (大阪大学大学院人文学研究科日本学専攻博士後期)

A comparative study of words beginning with “MU” in Japanese and Vietnamese languages: Focusing on words with special meanings

TRAN Quoc Hiep

In Japanese and Vietnamese, there are many words that begin with “MU”. They also share words that have special meanings. For example, in both languages, 無数 (*innumerable*) means “Plentiful”, 無限 (*unlimited*) means “Extreme”, and 無礼 (*rudeness*) means “Little” and “Bad”. This is the result of interaction with Middle Chinese. However, both languages have many unique words beginning with “MU”. In these words, there are similarity and difference about special meanings.

The similarity is that in both Japanese and Vietnamese, “MU” is useful for naming technical terms (in the real world) and conveying negative nuances (in the mental world). The difference is that in Japanese, the original meaning is maintained, but in Vietnamese, “Plentiful” and “Extreme” are often used. The reason for this difference is that the two languages have different linguistic types. In Japanese, an agglutinative language, “MU” is used as a prefix and can be combined with many base words. But in Vietnamese, an isolating language, there are restrictions on the phonetics and meanings in morpheme of what can be combined with. However, the most important reason is that in language contact, “MU” was borrowed into Japanese and Vietnamese, and shared the role of the expression of meaning with native words. As a result, “MU” is in charge of meanings that cannot be expressed by native words.

In addition, Japanese people are more open towards foreign words, including Chinese, but Vietnamese people are not. Japanese has borrowed many words not only from Chinese but also from Western languages in present. Modern Vietnamese was influenced by the movement to abolish Chinese characters and Chinese writing at the beginning of the 20th century and the “Protecting the purity of the Vietnamese language”

movement in the 1960s, so not only foreign words but even Sino-Vietnamese words also were purged.

In this way, Japanese and Vietnamese share the special meanings of words that begin with “MU”, but because their linguistic type and cultural backgrounds are different, each language shows unique acceptance and development.